

学校だより



鬼は外 福は内

校長

2月2日は節分です。今年は立春が2月3日なので、節分は例年より1日早くなりました。朝会で節分のことを話しましたが、皆さんのご家庭では豆まきをしますか？

豆まきの際に唱える言葉は「鬼は外、福は内」が一般的ですが、「鬼は外」を抜き、「福は内」のみを唱えるところもあるそうです。成田山新勝寺や浅草の浅草寺がそうなのですが、これらは、「ご本尊の前では鬼でさえも心を入れ替えてしまうから」と言われているそうです。また、鬼も招き入れるところがあるそうです。奈良・吉野の金峯山寺では、全国から追われてきた鬼を迎え入れて改心させるという意味で「福は内、鬼も内」と言うそうです。

一つのものの中に存在する、善と悪という二つの性質。私たち自身の心にも同じことが言えるのではないのでしょうか。朝会で、「『鬼は外』の鬼は、自分の心の中にあるわがままな心や怠け心、意地悪な気持ち、苦しい気持ちを吐き出すといった意味もあります。」と話しました。誰しも日常生活の中で、優しい気持ちで良い行いをすることもあれば、つい小さな良くない行いをしてしまうこともあるでしょう。いつでもどこでも100%良い心で、良いことのみをしている人はなかなかいないのではないのでしょうか。日頃私たちが何かを言ったり、何らかの行動を起こしたりする言動の裏側には、心の働きがありますが、これがプラスの方向にもマイナスの方向にも働くものです。善と悪の間で常に揺れ動いている、それが私たちの心なのだと思います。

子どもたちは友達との関係の中で、今日はとても素直で誰にでも優しくしていたかと思えば、次の日には意地悪をしたり、悪口を言ったりと、その時々で変わるのでトラブルがよく起きます。そんな時、話を聞いた教員は「どんな気持ちだった？」とその児童の心に問いかけます。その気持ちを聞いた教員は共感したり、次へのアドバイスをしたりして友達との関係が崩れないように支援していきます。今年度もあと2か月です。自分自身の行動を振り返って、次の学年では、できるだけ友達と穏やかに過ごせるように、心の中にいる鬼を打ち払えるといいかなと思います。